

平成 22 年度 CPD 協議会総会議事録

日 時：平成 22 年 5 月 20 日（木） 15 時 00 分～17 時 00 分

場 所：建築会館 3 階 301 会議室（港区芝 5-26-20）

出席者（順不同、敬称略）：

協議会長 桑原 洋（日本工学会副会長、日立マクセル）
担当理事 橋谷 元由（化学工学会）
会員代表 奥津 良之（計測自動制御学会）、高野 則広（色材協会）、
岡部 進（資源・素材学会）、児玉 孝亮（電気学会）、
持田 侑宏（電子情報通信学会）、大島 一哉・片山功三（土木学会）、
柳田 三徳（日本応用地質学会）、遠藤 滋（日本化学会）、
真木 康守（日本建築学会）、阿部 健一（日本分析化学会）
五嶋 照夫（日本マシエン지니어リング学会）、関田 真澄（日本冷凍空調学会）、
岡田 恵夫・小林陽一・黒澤兵夫（日本技術士会）
運営会議委員（会員代表との重複を除く）
池田 駿介（東京工業大学）、川島 一彦（東京工業大学）、
事務局 四戸 靖郷

配布資料：

- G22-1-1：平成 20 年度第 1 回協議会総会議事録
- G22-1-2：平成 21 年度第 2 回 COD 協議会運営会議議事録
- G22-1-3：平成 22 年度第 1 回 COD 協議会運営会議議事録
- G22-1-4：CPD WG 平成 21 年度活動報告及び平成 22 年度計画
- G22-1-5：ECE WG 平成 21 年度活動報告及び平成 22 年度計画
- G22-1-6：平成 21 年度収支決算報告および平成 22 年度収支予算
- G22-1-7：委員名簿

議 事：

最初に、桑原協議会会長から挨拶があり、橋谷理事の司会の下に議事が進められた。

1. 前回議事録確認

昨年 3 月 27 日に開催された平成 20 年度第 2 回の協議会総会の議事録案を確認した。また、昨年 11 月 30 日に開催された 21 年度第 2 回運営会議の議事録および本年 4 月 14 日に行われた 22 年度第 1 回運営会議議事録の概要が事務局から報告され、承認された。

2. WG 活動報告及び平成 22 年度活動方針

(1) CPD WG (関田主査)

1) CPD ガイドラインの公表

CPD ガイドラインの作成に向けて、1 年間かけて検討し、会員の皆様方からのパブリック

コメントも行い、ガイドライン最終案が固まった。本年度は CPD 協議会加盟の学協会へ「CPD ガイドライン」を配布し、出来るだけガイドラインに沿った運営をお願いする。また、CPD システムが未整備な団体には、ガイドラインを参考に整備して戴くをお願いする。

2) ポータルサイトの整備

長年にわたって議論されていたが、結論が出ない状態のままになっている。

技術者が、日本工学会 HP 上で CPD 協議会加盟の学協会の CPD プログラムの一覧が見られるようなポータルサイトを平成 22 年度に整備することを目指す。

次の意見・要望が出された。

- ・ ポータルサイトに各学協会が情報を登録するときに、あまり手間のかからないようにお願いする（電気：児玉氏）
- ・ 単に、各学協会のプログラムの一覧が見られるのではなく、カテゴライズした形で見れると良い(桑原会長)
- ・ ポータルサイトの具体的な形が見られるのはいつ頃か
- ・ 平成 22 年の夏ごろまでには、具体的な形を会員の皆様に提示したい(関田主査)

3) 横断的な CPD プログラムの検討

専門分野に拘らない横断的な内容の CPD プログラムについて日本工学会が中心になって推進するための検討を行う。

(2) ECE- WG (川島主査)

i 平成 21 年度活動状況報告

1) ナノテク ECE プログラムの立ち上げ

文科省の「実践型研究リーダー養成事業における平成 22 年度新規課題募集」に産総研が応募した「ナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラム」に ECE プログラムとしての構成、評価プロセスを取り入れていただくことにより、産総研に相乗りする形でナノテク ECE プログラムの実現をスタートできる状態にした。

2) 環境問題 ECE プログラムの素案検討

ナノテク ECE プログラムに次ぐ ECE プログラムとして、環境問題を取り上げることとし、その素案を作成した。

ii 平成 22 年度活動計画

1) ナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラム

ナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラムが採択されることを前提に、「ナノテク ECE プログラム開発・実施分科会」（仮称）を立ち上げ、産総研に協力してナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラムに応分の貢献をする。

主たる意見：

- ・ ECE プログラムに参加した人がどのような能力(コンピタンス)を身につけるのか(池田氏)

一目標とする能力及びその評価については今後議論する。ECE プログラムはその分野のリーダーを育成することを目指す（川島主査）

2) 環境問題 ECE プログラムの立ち上げ

環境問題 ECE プログラム（仮称）のコーディネーターを内定すると同時に、平成 23 年度実施に向けて、開発・実施分科会委員の選定、講義内容の確定、テキストの執筆を行う。

iii ECE プログラム委員会の設置の件

CPD 協議会内に ECE プログラム委員会を設置することが提案され、全会一致で承認された。なお、現 ECE WG は本委員会の幹事会として機能させる。ナノエレクトロニクス ECE プログラム、環境問題 ECE プログラム開発など、それぞれ分科会において推進していく。

3. 平成 21 年度決算報告および平成 22 年度予算計画

日本工学会決算報告および予算計画として同会定時総会で承認された財務諸表を基礎とした、平成 21 年度収支計算書および平成 22 年度収支予算計画書をおよび、資産を明記した平成 22 年 3 月 31 日現在の貸借対照表が示され、事務局から説明があった。

CPD ポータルサイトの構築に向けて、その委託を含む初期費用として、特定資産として預金されている「技術者能力開発準備基金」300 万円から、100 万円を計上することが承認され、予算書を以下のように修正することとなった。

* 収支予算書の収入項目に「基金からの繰入金」として 100 万円、事業支出のウェブサイト維持費を「ウェブサイト構築費」として、100 万円をそれぞれ加算する。

最後に、事務局から新旧交代を含めて会員名簿の確認があった。

以上の確認、審議を終え、本協議会総会を閉会した。

以上